

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）  
分担研究報告書

分担課題：子宮奇形を持つ反復流産患者の妊娠帰結調査  
手術・非手術の比較多施設共同研究

研究代表者 齋藤 滋 富山大学大学院医学薬学研究部教授  
研究分担者 杉浦真弓 名古屋市立大学大学院医学研究科教授  
研究分担者 竹下俊行 日本医科大学教授  
研究分担者 杉 俊隆 東海大学医学部准教授  
研究分担者 丸山哲夫 慶應義塾大学医学部講師  
研究分担者 小澤伸晃 国立成育医療センター医長  
研究分担者 中塚幹也 岡山大学大学院保険学研究科教授  
研究分担者 藤井俊策 弘前大学大学院医学研究科准教授  
研究協力者 平原史樹 横浜市立大学医学部教授  
研究協力者 西田正人 霞ヶ浦医療センター病院長  
研究協力者 林 保良 川崎市立川崎病院婦人内視鏡科部長

研究要旨

子宮奇形に対して手術が実施されているが、不育症患者に対する子宮形成術が生児獲得に寄与しているというエビデンスはない。本研究では多施設における双角子宮、中隔子宮を持つ患者に対する手術が生児獲得に寄与するかどうかを 2010 年までに検討する予定である。

A. 研究目的

名古屋市立大学の研究により双角子宮、中隔子宮が次回妊娠に影響があることが明らかになった。これらの子宮奇形に対し形成手術がおこなわれているが、合併症もあり、手術が生児獲得に寄与しているかどうか検討した報告は世界中に存在しない。

B. 研究方法

2002 年 1 月から 2007 年 12 月に不育症精査のために受診した患者に子宮卵管造影を行い双角子宮、中隔子宮、単角子宮、重複子宮を持つ患者をエントリーし、手術・比手術例について

- ① カプランマイヤーをもちいて診断時をスタート地点として成功率を比較
- ② 診断時から成功までの時間
- ③ 成功までの合計流産回数
- ④ 不妊症率

- ⑤ 出産した場合、妊娠週数、破水の有無、児体重、分娩様式を比較検討する予定である。

（倫理面への配慮）

本研究は名古屋市立大学倫理委員会の承認を得た。

C 研究結果

現在、6 施設、55 例がエントリー終了している。今年度中に 5 施設のエントリーを終了し、2010 年 12 月まで妊娠のフォローアップをおこなう。

F. 健康危険情報  
特になし

G. 研究発表

1. 論文発表  
なし

2. 学会発表  
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし

2. 実用新案登録  
なし

3. その他  
なし